









鳴門地区地域・人づくりワーキングの進捗

鳴門地区地域・人づくりワーキング

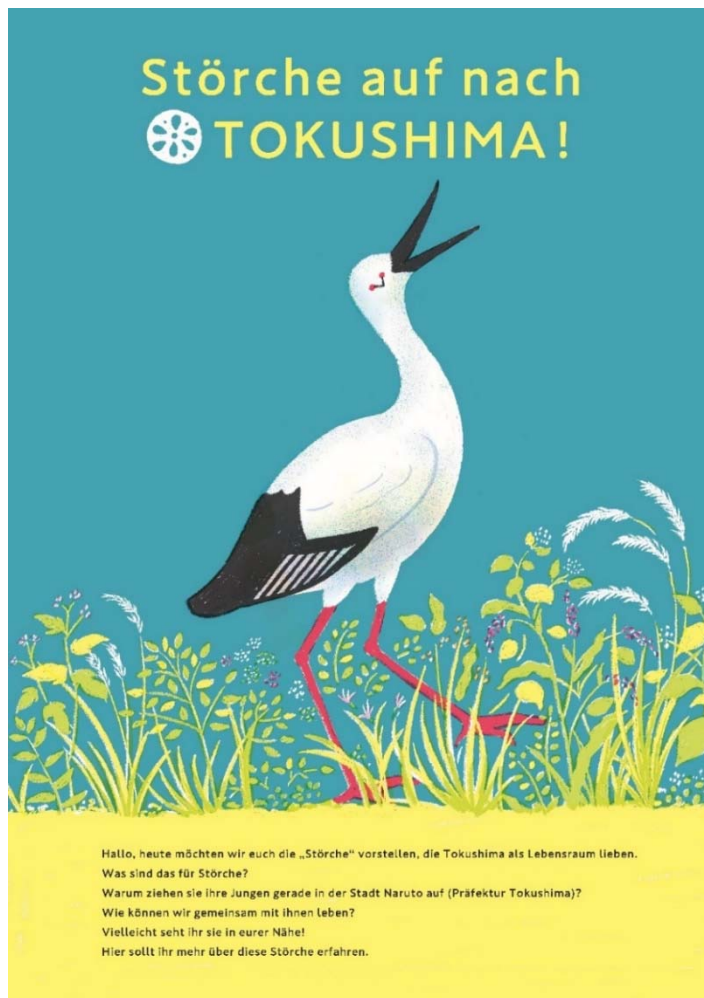
2019年9月30日に設置された「鳴門地区地域・人づくりワーキング」では、コウノトリの繁殖により注目を集める鳴門市における、魅力的な地域づくりや人材育成等の具体的な事業の推進や地域の課題について検討を進めています。

	2019年度	2020年度	2021年度
ワーキング会議	第1回  9/30 第2回  1/10	第3回  9/4 第4回  12/14	第5回  12/20 第6回 
コウノトリ・ツル類を活かした観光の検討	鳴門コウノトリれんこん教室  12/1	現地見学会  11/5 コウノトリ・ツル類を活かした観光における ルールの検討	ガイドブックの検討・作成
普及啓発・情報発信の検討		普及啓発パネルの検討・作成	展示

普及啓発パネルの展示

昨年度に作成した普及啓発パネル「このとり・徳島県へ」を2021年2月1日～28日に、みはらしの丘あいさい広場（小松島市）へ設置しました。あいさい広場への展示は、今年も2月2日～28日に実施する予定です。

また、普及啓発パネルのドイツ語版を、2021年7月13日～21日に、ドイツのハンドボール代表チームが東京オリンピック2020の事前キャンプを行った鳴門・大塚スポーツパークアミノバリューホールで展示しました。



あいさい広場での普及啓発パネルの展示
[写真提供: NPO法人とくしまコウノトリ基金]



鳴門・大塚スポーツパークアミノバリューホールでの展示

今年度の鳴門地区地域・人づくりワーキング

今年度は、ワーキング会議（2回）を行い、ガイドブック（案）の検討、普及啓発・情報発信の検討を予定しています。

〈2021年度〉

第5回ワーキング（2021年12月20日）

【主な内容】

今期のコウノトリ・ツル類の飛来・生息及び地域での取組状況について／ガイドブック(案)の検討・作成について／普及啓発・情報発信について



第6回ワーキング（2022年3月 予定）

【主な内容】

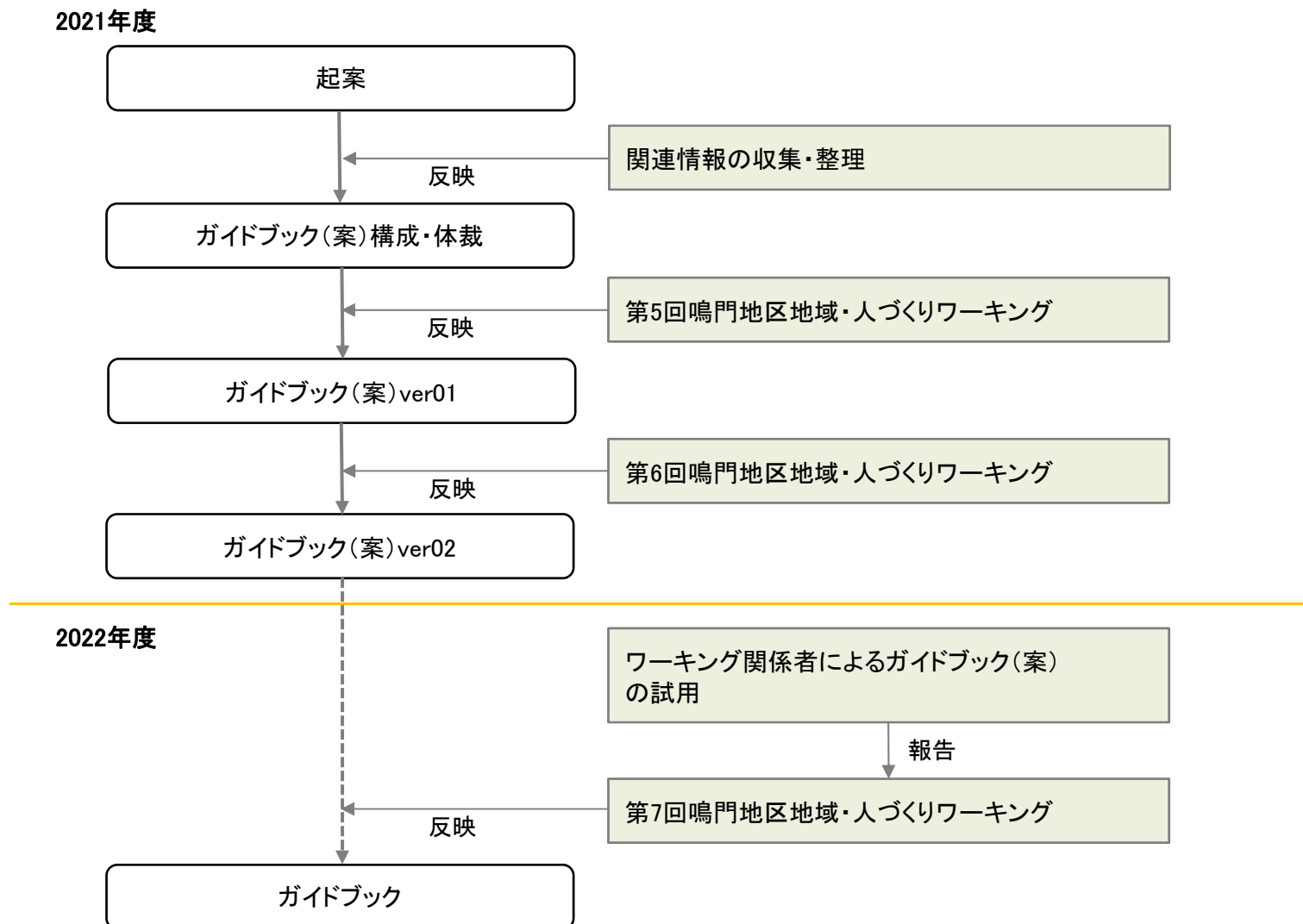
ガイドブック(案)について／普及啓発・情報発信の働きかけの結果について

第5回ワーキングの参加者

ワーキングメンバー		出欠
田村 耕一	(一社)イーストとくしま観光推進機構 協議会長 ◆座長	○
柴折 史昭	NPO法人とくしまコウノトリ基金 理事・事務局長	○ (WEB参加)
井内 泰	(一社)イーストとくしま観光推進機構 事務局次長	欠席
渡辺 晃	(一社)ツーリズム徳島 事務局長	○ (WEB参加)
河口 洋一	徳島大学大学院社会産業理工学研究部 准 教授	○ (WEB参加)
藤川 浩	JA徳島北 参事	欠席
野田 勇人	NPO法人れんこん研究会 理事長	○
塩崎 桂子	アオアヲナルトリゾート アシスタント セールスマネージャー	○ (WEB参加)
天野 裕己	(一社)鳴門市うずしお観光協会 次長	欠席
斎藤 忠恒 (島本 康治)	大麻町商工会 会長 (代理:大麻町商工会 経営指導員)	○代理 (WEB参加)
氏師 毅	徳島県危機管理環境部グリーン社会推進課 自然環境担当 課長補佐	○ (WEB参加)
原田 英治	徳島県商工労働観光部観光政策課 観光プロモーション担当 課長補佐	欠席
佐竹 孝文 (斎藤 純子)	鳴門市 経済建設部農林水産課 課長 (代理:経済建設部農林水産課 副課長)	○代理 (WEB参加)
篠塚 篤志	鳴門市経済建設部観光振興課 課長	○ (WEB参加)

ガイドブックの検討・作成

これまでの鳴門地区地域・人づくりワーキングで、コウノトリ・ツル類を活かした観光を展開する上での課題の一つとして、受け入れ体制を充実していくことがあげられています。受け入れ側が来訪者へ一定レベルの説明をできるようにするため、関連情報を整理して、ガイドブックを作成します。



第5回鳴門地区地域・人づくりワーキングでの主な意見

主な意見

ガイドブック（案）の検討・作成について

- ・窓口でよく聞かれる内容を想定してつくってくれるのは役に立つと思う。文章だけでなく、イラストや写真を使用して、分かりやすい内容にしてもらいたい。コウノトリについて話せる人を育てるときにもガイドブックが活用できると嬉しい。
- ・コウノトリに配慮した形で、ある程度の距離を保って、という情報は、必ず入れてもらいたい。ただ観光に来てくださいというのではなく、自然と共存できるようなことも打ち出して、つくってもらいたい。
- ・徳島県が作成した観光ガイドマップなど広域的なものに合わせて、周知が図れたらいいのではないか。
- ・コウノトリやツルの観察できる時期や場所について、コウノトリは産卵し、子育てして巣立つまでは親鳥ないし雛が巣にいるので、確実に観察ができるが、それ以外の時期の記載方法は難しいと思う。ツルについては、さらに不安定なので、必ず来るとも限らないし、どこに行ったら見えるというのなかなか分からない。鳴門では、ツルの飛来場所がいずれも非常に狭い場所になっているため、観察によるツルへの影響が避けられないケースが多いと思う。
- ・鳴門のコウノトリは、他地域とは異なり水田ではなく、レンコン田を利用している。吉野川がつくり出した氾濫原環境の歴史と農業、それが他の地域と違うということを伝えられるといいと思う。
- ・農業用の道路で道幅は狭いので、大型の乗用車で入って来られると農家も困る。夏場にレンコンの軸が伸び、葉が生い茂ると迷路のようになってくるので、Uターンするにもできない、最悪の場合、車のタイヤを田んぼに落としてレッカー移動になってしまうという事態もあるので、その辺りを詳しく記載するとよいと思う。
- ・徳島県にナベヅル以外が飛来する確率はとても低いので、ガイドブックで案内するツル類は、ナベヅルだけでよい。
- ・大麻町だけでなく島田島のビオトープなどもエリアに入れられるといい。
- ・コウノトリが見られなかったときのために、コウノトリが鳴門で生活している動画のQRコードをガイドブックに掲載できるといい。大体の参加者は、アオサギやシラサギをコウノトリと間違えるので、それらの情報が入るとよいと思う。

普及啓発・情報発信について

- ・JR四国との連携の際には、営巣地からの距離が変わらない勝瑞駅であってもいいのではないか。ドイツ館との連携もあるといいと思う。
- ・昨年度作成した普及啓発パネルを子供向けにしたものがあるとよい。
- ・普及啓発パネルを「あすたむらんど」にも置かせてもらえるとよいと思う。
- ・2月15日に、とくしまコウノトリ基金主催で、アドベンチャー・ツーリズムのシンポジウムを開催する。協議会もしくは、鳴門地区地域・人づくりワーキングにも、可能であれば協力してもらいたい。